

専門研修プログラム名	昭和大学横浜市北部病院連携施設 精神科	専門研修プログラム
基幹施設名	昭和大学横浜市北部病院	
プログラム統括責任者	稲本淳子	

専門研修プログラムの概要	本プログラムの最大の特徴は、神奈川県横浜市と共同運営する大学附属総合病院の精神科病棟と、全国唯一の東京都(23区内)にある大学附属単科精神病院とで研修できることである。両病院ともに措置入院や医療保護入院を受け入れ可能な病棟を持ち、国家資格である精神保健指定医の取得には、とても有利な条件を備えている。受け継がれてきた良質な精神科研修システムは、毎年10名近い若手医師の入局実績という形で評価されている。また大学附属病院では学べない地域精神医療の研修のために、関東近県を中心に青森県から沖縄県の広範囲の地域中核病院と連携をしている。	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	最初の一年間は大学附属総合病院である横浜市北部病院(神奈川県横浜市都筑区)にて精神科救急病棟と高齢者病棟で研修を積みながら、精神科患者の身体合併症治療、リエゾン・コンサルテーション、緩和ケア活動、周産期メンタルヘルスケアなどにも携わる。次の一年間は大学附属単科精神病院である烏山病院(東京都世田谷区)で精神科の臨床・研究の基礎を学ぶ。最後の一年間は大学附属病院では学べない地域精神医療の研修を予定している。地域医療研修先では様々な経験ができることはもちろん、医局同窓生が指導医となっていることが多く、研修終了後のための人脈づくりにも有益である。	
専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	1. 患者及び家族との面接、2. 診断と治療計画、3. 疾患の概念と病態の理解、4. 補助検査法、5. 薬物療法、6. 精神療法、7. 医の倫理、8. 安全管理、9. 統合失調症、10. 気分障害、11. 症状性を含む器質性精神障害、12. リエゾン・コンサルテーション精神医学、13. 児童・思春期精神障害、14. アルコール・薬物依存症の症例について三年間で知識、技能、態度について修得する。
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	昭和大学横浜市北部病院と関連病院において研修開始時にオリエンテーションを行う。また昭和大学横浜市北部病院と関連病院において指導医の指導ならびに関連した各種研修会、勉強会により知識・技能を習得する。
	学問的姿勢	専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽に努めることが求められる。各研修施設群における指導医の指導、文献抄読会・症例検討会、勉強会への参加ならびに自ら講師を務めること、院内研究グループへの参加、学会発表経験により形成する。
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	日本精神神経学会やその他学会、学術集会、研修会、セミナー等への参加により、医療安全、感染管理、医療倫理、医師として身につけるべき態度などについて履修し、医師としての基本的診療能力(コアコンピテンシー)を高める機会をもうける。
年次毎の研修計画	専門医となる必要な知識、技能、態度が修得できるように、最初の一年間は横浜市北部病院、次の一年間は烏山病院、最後の一年間は地域精神医療の研修を予定している。横浜市北部病院を最低半年は研修し、希望に合わせて残りは自由に期間を調整することとしている。	

<p>施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方</p>	<p>研修施設群と研修プログラム</p>	<p>研修1年目では大学附属総合病院である横浜市北部病院(神奈川県横浜市都筑区)で研修する。神奈川県精神科救急基幹病院であり、毎日、措置入院や二次救急入院(医療保護入院や応急入院相当の救急入院)に対応し、多くの救急症例の治療を経験できる。急性期治療として修正型電気けいれん療法を多く実施している。入院診療は精神科救急入院料病棟と高齢者精神科病棟にて研修を積みながら、精神科患者の身体合併症治療にも他診療科と協働して取り組み、総合病院内の精神科の特徴として、リエゾン・コンサルテーション、緩和ケア医療、周産期メンタルヘルスケアなど多くの多職種チーム医療に携わる。特に2020年以降、専攻医はスタッフドクターとともに多職種、多診療科と連携してCOVID-19対応のための総合病院内の勤務や医療職員のメンタルヘルスケアにも参加する。このように総合病院の特性を活かして、医療の最前線や社会の中で求められる精神科医の役割を学ぶことができる。2年目では大学附属単科精神科病院である烏山病院(東京都世田谷区)で精神科の臨床・研究の基礎を学ぶ。横浜市北部病院と同様に精神科救急の最前線で臨床経験を積み、亜急性期病棟、慢性期病棟、高齢者病棟、そして特別病棟など特色ある病棟で研修が可能である。研修症例は豊富であり、CT、MRIなどの画像診断や修正型電気けいれん療法も実施できる。また、一般精神科外来のみならず高齢者・認知症外来と発達障害外来や大規模デイケアを有しているため、あらゆる精神疾患の急性期から維持期の外来治療について包括的に研鑽を積むことができる。3年目では、大学附属病院では学べない地域精神医療の研修を予定している。地域の中核として活動している関東近県の病院と連携をしており、様々な経験ができることはもちろん、研修終了後のための人脈づくりにも有益である。</p>
	<p>地域医療について</p>	<p>東京都以外、神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県、群馬県の関東近県、そして青森県、山形県、福島県、新潟県、静岡県、徳島県、宮崎県、沖縄県と全国の地域中核病院での研修を予定している。</p>
<p>専門研修の評価</p>		<p>「研修記録簿」に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的评价1は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回行う。プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。専攻医自身が自分の達成度評価を行い、指導医も形成的評価を行い記録する。少なくとも年1回は指定された研修項目を、年次ごとの達成目標に従って各分野の形成的評価を行い、評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックを行い記録し、翌年度の研修に役立たせる。</p>
<p>修了判定</p>		<p>研修を修了しようとする年度末には総括的评价により評価が行われる。プログラム統括責任者や指導医による口頭試問、統一された研修記録簿の振り返りにより、修了判定を実施する。</p>
	<p>専門研修プログラム管理委員会の業務</p>	<p>研修プログラム連携施設担当者と専門研修指導医で委員会を組織し、個々の専攻医の研修状況について管理・改善を行う。</p>

専門研修管理委員会	専攻医の就業環境	専攻医の就業はそれぞれの研修施設の就業規則に則って行われるが、就業環境の整備が必要な時は、各施設の労務管理者が適切に行う。各施設で行われる定期的な健康診断（年2回）のほかに、心身の不調があるときは、研修指導医を通して、産業医を始めとしたしかなるべき部署、担当者で対応する。
	専門研修プログラムの改善	プログラムの点検・評価ならびに改善・改良は各研修施設で定期的に行うが、全体として改善・改良の必要がないかどうかを、プログラム統括責任者のもとで、研修施設群のプログラム責任者によってつくられるプログラム管理委員会で、年1回検討する。
	専攻医の採用と修了	当プログラム専門研修管理委員会にてまず採用と終了について検討し、最終的には昭和大学専門臨床研修（専攻医）委員会において採用と修了を決定する。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	妊娠、介護、その他の家庭の事情、留学、心身の問題などで止むを得ず研修を休止、中断、プログラム移動、プログラム外研修とする場合はプログラム統括責任者と相談し、昭和大学専門臨床研修（専攻医）委員会において決定する。
	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	適宜、実施する。難しい場合は指導医もしくは専攻医から委員会に報告をする形で調査する。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、 役職を記述してください。	・稲本淳子（昭和大学横浜市北部病院 教授）・山田浩樹（昭和大学横浜市北部病院 准教授）・富岡大（昭和大学横浜市北部病院 准教授）・岩波明（昭和大学附属烏山病院 病院長）・真田建史（昭和大学附属烏山病院 准教授）・太田晴久（昭和大学附属烏山病院 准教授）・高塩理（昭和大学病院附属東病院 准教授）・戸田重誠（昭和大学病院附属東病院 准教授）・長井友子（昭和大学江東豊洲病院 講師）	
Subspecialty領域との連続性	日本総合病院精神医学会、一般病院連携精神医学専門医研修施設に認定されている。	